

## 班会で育んでいるもの



川久保病院  
緩和ケア認定看護師  
菅原 由美子

私は緩和ケア認定看護師として、院内のみならず地域の方々にもアドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）を普及したいと思っています。ACPとは自分の価値観や生きがい、「人生の最終段階」で希望に沿ったケアを話し合うものです。そこで地域の方々の思いを知るため、9月に5か所の組合員活動へ参加しました。その際、参加している組合員さんに

3つの質問をし、72名から回答を頂きました。一つ目は「あなたの楽しみや生きがいを教えてください」、「二つ目は「これからの生き方について主に誰と話し合いますか」、三つ目は「どのような企画をしてほしいですか」という質問です。

一つ目の質問で一番多かったご意見は「町内や生協仲間、友人と会って話すこと」、次に多かったご意見は「子や孫、母親と会って話すこと」でした。共通して「集うこと」を楽しみにしていることが分かりました。二つ目の質問で一番多かった答えは「同居の家族」、次に「友人」、その次に「遠方の家族」でした。三つ目の質問で一番多かったご

意見は「組合員活動や健康診断をもっと取り組んでほしい」という結果でした。

現在コロナ感染の影響からコミュニケーションの工夫として、携帯電話での会話やパソコンで顔を合わせての会合などが頻回に行われています。組合員さんの集いでは、ちょっとした話題で声を掛け合ったり、笑顔の交わし合いが多いことを知りました。最初は表情が硬い組合員さんも時間が経つといきいきとした表情で過ごしています。このようなひと時は携帯電話やパソコンではできません。班会で、身体の健康と同時に心の健康も育んでいることを知りました。今度はACPについて一緒に学習し考えていきたいと思えます。